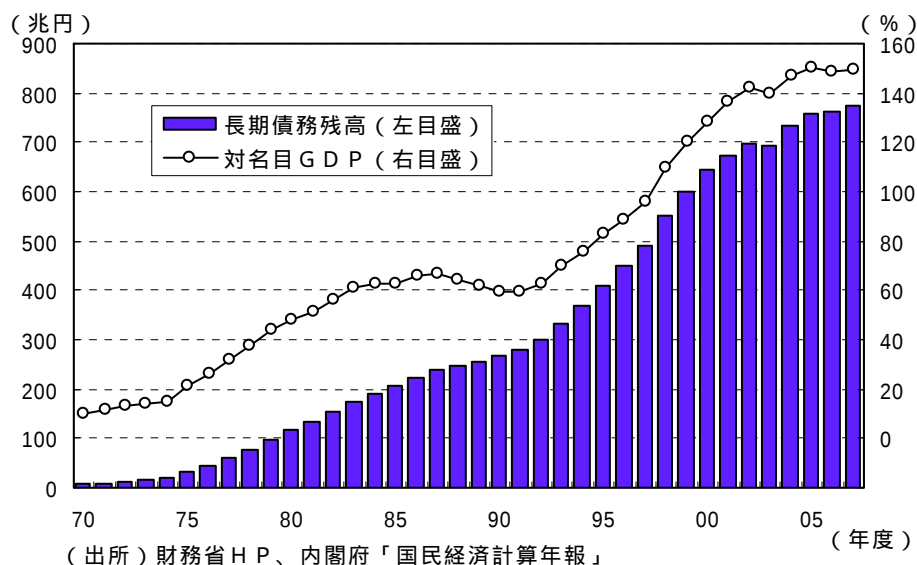


日本の財政問題

Q 1 . 福田政権になって財政再建の動きが後退したのでしょうか？

- ・ 日本の財政赤字額は、2007 年度末に国と地方の長期債務の合計で 773 兆円にまで膨らむと見込まれています（図表 1）。これは日本の国民総生産（GDP）の約 1.5 倍にもなります。バブル崩壊後の成長率低下による税収減に加えて、財政支出を伴う大型の景気対策を数度にわたって行ったことが財政赤字増加の原因ですが、小泉政権が誕生してようやく財政再建への取り組みが始まりました。また、2006 年 9 月に誕生した安倍政権でもこの方針は引き継がれました。
- ・ 2007 年 9 月に福田政権が誕生しましたが、首相就任直後の所信表明演説や、平成 20 年度の予算を編成するにあたっての基本方針において、新政権においても財政再建の方針を堅持することが示されています。
- ・ もっとも、福田政権を取り巻く環境が、これまでと異なってきていることは事実です。まず参議院で与野党の議席数が逆転するという国会のねじれ現象が生じており、これまでの政権のように首相が強いリーダーシップを発揮しづらくなっています。また、景気回復の足取りも重くなっており、税収が伸び悩んでいます。2007 年度においては当初の予算案ほど税収が増えず、補正予算においては税収の下方修正を余儀なくされました。
- ・ こうした環境下で 2008 年度の予算案が国会に提出されました。内容をみると、公共投資や政府開発援助の削減を継続し、新規国債の発行額を 4 年連続で圧縮するなど、財政再建を継続させるという意思は示されています。
- ・ しかし、国債発行額は 25 兆 3,480 億円と 2007 年度当初予算（補正予算でも変更なし）と比べ 840 億円減少するに過ぎません。また、地方交付税の増額、小中学校での教員数の増加、高齢者の医療費負担増の凍結（2007 年度補正予算の歳出増で負担）、診療報酬の引き上げなど、これまでの削減方針に逆行する動きも出ています。次回総選挙を意識して地方や与党議員の歳出増加の要求に応えざるを得なかったとの見方もあり、財政再建の流れが停滞するのではないかと懸念が指摘されています。財政再建の方針を放棄した訳ではありませんが、環境の変化も加わって、これまでの再建姿勢がやや後退したといえるでしょう。

図表 1 . 国と地方の長期債務残高、GDP 比率



Q 2 . バラマキ予算が復活するのですか？

- ・ 政府は、財政再建を目指すにあたって「2011 年度にプライマリーバランス（基礎的財政収支）の黒字化を達成する」という具体的な数値目標を示しています。この目標は、小泉政権で策定された「経済財政運営と構造改革に関する基本方針（骨太の方針）2006」において定められましたが、その後の安倍政権、福田政権でも引き継がれています。
- ・ プライマリーバランスとは、一般歳出と地方交付税の合計額から税収を引いたものです。すなわち、プライマリーバランスが黒字ということは、その年の税収で国の活動に必要な資金が賄えている状態ということです。この目標を達成するにあたっては、歳出と歳入の両面で改革を行う、いわゆる歳出・歳入一体改革によって成し遂げることが基本的な方針となっています。「歳出の抑制と徹底的な見直し」を行ったうえで、将来世代に負担を先送りしない社会保障制度を確立するために「安定した財源を確保する」というものです。
- ・ 「骨太の方針 2006」では、大まかではありますが、歳出の削減目標額が定められています。たとえば、公共投資については毎年 1～3% のペースで削減する、国や地方の公務員数を減らして人件費を削減する、社会保障費など大幅な自然増加が見込まれる分野においても増加を極力抑制するといったものです。このように個別分野での歳出削減額を積み上げ、歳出全体から国債費（国債の元利払いを賄うための費用）を除いた金額（一般歳出と地方交付税の合計）を 5 年間で最大で 14.3 兆円、少なくとも 11.4 兆円の削減を行うことが目指されています。
- ・ このため、安易に歳出を増やすことはできません。これまでの削減方針に逆らって歳出を膨らませてしまうと、せっかく進めてきた歳出・歳入一体改革を放棄することに

つながるからです。地方や与党議員からの要望によって歳出を膨らませてしまえば、国民に改革が後退しているとの印象を与えてしまうことになります。

Q 3 . 消費税は引き上げられるのですか？

- ・ 2011 年度のプライマリーバランス黒字化の目標に向って歳出削減の努力が行われていますが、それでも黒字になるにはまだ不足しています。この不足分については、歳出・歳入一体改革の方針に基づいて、税収を増やして埋めることになります。
- ・ 税収は基本的には景気と税率によって決まります。景気がよくなれば個人や企業の所得が増加し、個人消費も増えますので、所得税、法人税、消費税などが増加します。このため、景気回復が続き、税収が政府の当初の見通しを上回って増加してくれば、増税をしなくともプライマリーバランスが黒字化する可能性が出てきます。実際、2006 年後半から 2007 年前半にかけては、税収の自然増加を背景に、税制を変えなくとも黒字化が達成できるという楽観的な見方がありました。
- ・ ところが、2007 年後半以降、景気の拡大ペースが鈍り、税収がなかなか増えてこなくなってきました。景気と歳出削減のシナリオに基づいて内閣府がプライマリーバランスの試算値を発表していますが、2006 年 12 月時点では増税しなくても黒字化する可能性があったものの、最新の 2008 年 1 月の試算では景気シナリオの下方修正によって増税なしの黒字化達成が厳しい状態にあることが示されています。
- ・ 一方、2009 年度には基礎年金への拠出金のうち、国の一般会計で負担する金額が全体の 1/2 にまで引き上げられる予定です。これは、少子高齢化の進展を踏まえ、今後の年金財政を安定化させるために、2004 年の年金制度改革において決められたものです（残りの半分は主として保険料で賄われます）。この改革においては、国庫負担の増加に見合った財源を確保することが定められましたが、どうやって資金を捻出するかの決定は先送りされました。
- ・ 税収がどんどん増えていけば、増税なしで国庫拠出金引き上げへの対応が可能となりますが、それに期待するのは現在の状況では難しそうです。このため、消費税の引き上げで対応してはどうかという議論が高まってくる可能性があります。消費税の引き上げについては以前から選択肢の一つとして有力視されてきました。福田政権も「消費税を含む税体系の抜本的改革について早期に実現を図る」として、消費税引き上げで対応する可能性を示唆しています。なお、国庫拠出金の引き上げに対応するには約 1% の消費税引き上げ（税収増加は約 2.5 兆円）が必要となる計算となります。
- ・ また、2011 年度までにプライマリーバランスの黒字化が達成できなくなると、財政再建の取り組みが大きく後退したという印象が強まります。財政再建の方針を維持する

ためにも、消費税率引き上げの可能性が高まっています。

Q 4 . ガソリンの暫定税率の延長が議論になっているようですが？

- ・ 私たちがガソリンを購入する際には、揮発油税、地方道路税、消費税の三種類の税金がかかっています。このうち揮発油税、地方道路税は本来の税額に加えて、一時的に税金が加算されており、こうした上乗せ分を含めた税率を暫定税率といいます。揮発油税は本来の税金である 24.3 円/ℓの二倍の 48.6 円/ℓの暫定税率が適用され、地方道路税は本来の 4.4 円/ℓに対し 5.2 円/ℓの暫定税率が適用されています。
- ・ この揮発油税、地方道路税は、道路を建設する目的に用途が限られた税金であり、これらを道路特定財源といいます。道路を利用する人（＝自動車に乗る人）に道路の建設や修繕・維持のコストを負担してもらおうという考え方です。道路特定財源にはこの他に、石油ガス税（タクシーなどが使用する石油ガスに課税）、自動車重量税（自動車を保有することに対する課税）、軽油取引税（ディーゼルエンジンの燃料などへの課税）、自動車取得税（自動車購入時に課税）があります。これら道路特定財源のうち石油ガス税以外で暫定税率が適用されています。暫定税率が適用されたのは、自動車の増加により道路建設の需要が高まり、その財源が不足したことに対応するためです。当初は 1974 年度から 2 年間の暫定措置とされましたが、道路建設の財源を確保する目的で、その後も期限が延長されて今日に至っています。
- ・ その延長期限が 2008 年 3 月末に到来します。このため、国会で再延長されなければ、上乗せの税金（25.1 円/ℓ）は 4 月以降なくなり、小売価格が下がることになります。2008 年に入って開かれている通常国会において、与党が暫定税率の延長を主張する一方、野党は廃止を訴え、延長か廃止かを巡って混乱が続いてきました。しかし、与野党間で「年度内に一定の結論を得る」との合意がなされたことから、暫定税率の期限は延長される見込みです。もっとも、延長期間や資金使途の見直しなどの問題を巡って与野党間で活発な議論が行われると思われ、年度末に向けて再び政治的な混乱が生じる可能性は残ります。

お問合せ先 調査部 小林 真一郎

E-mail : s.kobayashi@murc.jp

本レポートに掲載された意見・予測等は資料作成時点の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。